

養鶏用オートメーション機器



ハイテムが売り込む徳青源の工場—中国・北京市郊外

ハイテムが中国販売

市場の成長を見込む

養鶏設備メーカーのハイテム（各務原市テクノプラザ、安田勝彦社長）は中国での販売を始めた。中国トップ層の採卵養鶏業者約100社をターゲットとし、養鶏用直立ベルトケージシステムなどオートメーション機器を売り込む。5年後の中国など海外での売上高目標を10億円とする。



安田勝彦社長

同社の養鶏業者向けオートメーションシステムの国内シェアは約5割を占め、国内最大手。2009年、中国・天津市に子会社「星海泰設備製造有限公司（通称スターハイテム）」を設立し、現在

はフル稼働で同社製品の約7割を製造している。同社の国内シェアは5割だが、国内の採卵用の鶏が約1億5千万羽なのに対し、中国は約15億羽とほぼ10倍。中国では労働者の賃金が上昇傾向のため大手を中心にオートメーション化が今後進み、巨大市場に成長すると予想されている。鶏卵の

需要増を背景に大手企業が新たに養鶏業に新規参入するケースもあり、自社の中国での生産体制も軌道に乗りつつあることから、事業成長には中国での販売が欠かせないと判断した。

販売実績もすでに上

げており、1日250万個の鶏卵を出荷する中国大手の徳青源（北京市）の60万羽を飼育する施設案件を受注。同社が広州で計画している300万羽の工場も受注へ向けて交渉を進めている。

顧客ニーズが厳しい日本で培われた、ランニングコストの安さを中国でのアピールポイントとしており、安田社長は「中国の養鶏業者は現在10〜20万と言われるが、今後10年で大型化が進み1万程度になると予想される。国内シェアの7割を目指すのと同時に中国を日本と並ぶ市場に育て、台湾、タイなどアジアに販売を広げてい

きたい」と話す。